

# Meet the Musicians

楽団員紹介

秘めたヴァイタリティで  
世界を見つめるヴァイオリニスト

## 坂井 みどり

Midori Sakai

[首席第2ヴァイオリン奏者]2002年7月入団

趣味: YouTubeで24時間ライブ配信している  
「ナミビア・ナミブ砂漠の水飲み場」を覗くこと



©NIkegami

### アンサンブルを追いかけて

3歳になる少し前、歌を歌いながら割りばしで弾き真似をする姿を見た母が、「ヴァイオリンに興味あるのかしら」と、教室に連れていったのが楽器を始めたきっかけです。

転機は音楽大学を卒業してすぐの頃。台湾に初めて国立のオーケストラ(現在の「国家交響楽団(NSO)」)が創設されるにあたり助っ人外国人オーディションが日本であったのです。当時の台湾は戒厳令が無くなったばかりで、オーケストラもまだ「実験管弦楽団」と呼ばれていた時代。ですが、両親からも「あなたは井の中の蛙だから、海外に出て一人で生活してみなさい」といわれ、すんなり台湾行きが決定しました。不安は大きかったですが、細かいことを気にしない性格なこともあり、正直よく考えていなかったんですよ。2年くらいのつもりで渡台しましたが、最終的には10年近くを台湾で過ごしました。

帰国したときには「もうオーケストラに入団しなくても良いかな」と思っていたのですが、離れてみるとやはりアンサンブルが好きだなと感じていました。そんなときに東響のオーディションがあり、今に至ります。タイミングにも恵まれました。

### 第2の故郷

当時の台湾のオーケストラは日本と違うことばかり。初日のリハーサルは忘れもしません。座るところも決まっておらず、指揮者に「じゃあ君、

今日は第1ヴァイオリンの3プルト、表ね」と言われ、緊張の中「ラ・ヴァルス」のリハーサルがスタート。そこで指揮者が聴いたことのないような“間”をとられて、私が一人で飛び出してしまったのです。それで演奏が止まってしまって。日本では演奏が止まるなんてあり得ないので、「これは大変なことをした」と真っ青になって、もうよく覚えていないのですが、その場で立って、確か日本語で「ごめんください!!」と大きな声で謝ったんです。それが超ウケて(笑)。そこから皆が話しかけてくれるようになり、一気に打ち解けましたね。

台湾は第2の故郷。もう離れて20年が経ちますが、今でも当時の仲間たちとは頻繁に電話やメッセージで連絡を取ります。こんなお付き合いをする友人が出来るとは思っていませんでしたし、本当に財産ですね。



台湾に行って間もない頃、中正紀念堂の広場で。眼鏡をかけているのが私です。

インタビュー:事務局